

【マニュアル作成と翻訳の面白さ】

アーケテックコム株式会社で、マニュアル作成と翻訳を行っています。豊原 信です。



ウェブサイト：
<http://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

読み手の「にっこり微笑み」を求めて

こんにちは。

今月は、あるクライアント様の「海外向けのマニュアル」を作成したときのお話です。それと恒例の『勝手応援メッセージ』を紹介いたします。

マニュアル作成の面白さ

一番ワクワクと気持ちが高ぶり面白いのは、企画のときです。マニュアルの使い手や読み手が、『あ～そうか』と分かって、やってみて、上手くでき、“にっこり”される。その幸せな笑顔を想像して、どのように作り上げようかと考えるときです。

読み手の微笑みを求め

この“にっこり笑顔”をお届けすることを目標に作成を進めています。そうすることで、作成チーム全体が常に明るく、朗らかに、生き生きと積極的になります。作業効率はずごく良くなります。クライアント様も当然のこととして、この明るく、楽しい、積極

的なマニュアル作りの“渦”の一員になられます。

業務マニュアルも対象

例えば、作業が複雑で長時間の緊張が必要な職場で働く方が読み手の場合。作業内容の複雑さからくる「恐怖や不安」を少しでも和らげられるマニュアル作成を目指します。結果、『あ～そうか』と“にっこり”されるように作り込んでいきます。

文章の作り方

マニュアルの使い手や読み手の“にっこり笑顔”をどのようにして作り出すか。まず、日本語の文章を短い文章にします。当然ですが文法は遵守します。弊社の場合、45文字以内で作文することをルールにしています。参考までに、糸井重里さん主宰の「ほぼ日刊イトイ新聞」は18文字です。その心は、いちばん理解しやすい長さとのことです。このように、短い文章で分かりやすく、一読しただけで理解できる文章を作ります。

避けて通れない壁

マニュアル作成でどうしても避けて通れない、絶対に遵守しないといけないことがあります。用語と文章スタイルの統一です。この段階で大いに文章としての面白味は削がれることとなります。ここが、作り手として辛いところです。マニュアルはクライアント様の商品の一つです。品質を確保することは、絶対的な必要条件です。

翻訳準備が必要

日本語文章が完成すると、次は翻訳の準備作業に入ります。完成した日本語文章を翻訳用に再度書き直します。翻訳者が日本語の内容を正しく把握できる。そしてネイティブの方が内容を一読で理解できる翻訳文章を作ることが狙いです。

もう一つの狙いは、翻訳者による意識を防ぎます。マニュアルでの意識は誤訳に繋がります。

翻訳と仕上げ

やっと翻訳作業に入ります。翻訳

後、完璧な文章にするための仕上げを行います。クライアント様と共同で、現地のネイティブの校正を行い、社会文化に合った用語や表記に変更します。これでやっと、使い手や読み手に“にっこり笑顔”をお届けすることが可能になります。

このように、“にっこり微笑んでいただく”ことを目指して作り込んでいます。

今月の応援メッセージです。

判断に優先順位を付ける。
簡単で、誰もができそうだが、ここに多くの人がかかっている。

例えば、会社で社員が怪我をした救急車を呼ぶか、すぐに病院へ連れていくか、怪我の手当てが最優先。(誰もが分かること。)

会社から病院へ運びこむときに、上靴から下履きに、はき替えることはしない、急ぐことが優先だから・・・

しかし、下履きに履き替えることは、正しいこと。

この場合は、正しく無くとも、早く怪我の手当てをすることを優先するから、上靴から下履きに、はき替えることはしない。(当たり前前の判断。)

ただ、多くの人がか、正しいに引っ掛かる、誰かが正しいことを言っ

たとき、それを無視してでも、為すべきことをする決断、判断ができない。

上記のような、「怪我をした」などという緊急事態のときは、分かりやすいが、会社の中の緊急では無い出来事の場合、優先順位を間違え、正しいに引っ張られてしまうことが多々ある。

判断に優先順位を付ける。
簡単で、誰もができそうだが、ここに多くの人がかかっている。
特に、多くの人を巻き込み、方針を示すときなど、難しい。
それぞれが、それぞれの立場、立場で判断するとき、難しい。
会社全体の優先順位、現場での優先順位、個人の優先順位、社会の優先順位。

どこまで、深く、広く、遠くまで考え、優先順位を付けるか。
あなたにとって大切な事は、優先順位を付けること。
そのために、深く、広く、遠くまで考え、優先順位を付ける。
相手の立場に立っての優先順位も考慮する。

さあ、今日も、優先順位を付けて、一つひとつ片づけていこう！
とにかく、あなたの判断を支持します！

あなたを応援します！

会社の社長さんで、この判断基準の哲学を持っていらっしゃる方は少数だそうです。

この判断基準は、「人間として正しいか」です。これができないと「恐怖心」を払拭できません。

これは【考え方】そのものです。実行しようという【熱意】も必要です。

皆さんが最重視される【能力】はそんなに必要ないです。

京セラ創業者の稲盛和夫氏が教えられている次の公式に当てはまりますね。

【人生の成果／仕事の成果】＝
【考え方】×【熱意】×【能力】

【考え方】は-100～+100

【熱意】【能力】は0～+100

豊原 信